

研修だより

矢島小学校

13

04.11.30

5分間プレゼン大会にむけて

- 伝える相手と目的 -

12月13日に第1回目が開かれることになりました。合計、2回行うということは、1回目、2回目それぞれに、開催の「ねらい」があるということです。

1回目は、自分たちの持っている力で、プレゼンをまず作ってみる。そして、それをお互いに見合いながら意見交換することで、上手なプレゼンにするためのポイントに気づくことにあります。総合的な学習の時間で言えば、「中間発表会」にあたるのが、これです。

2回目は、1回目での経験をもとに、手直しをし、ステップアップした形で行います。1回目では見えなかったものが、この段階で初めて見てきたりします。

5分間プレゼン大会を行うことによる効果は、次のようなものです。

効果	教師自身がプレゼンを経験することによって、自分自身のプレゼン能力が高まる
効果	子どもにプレゼンを指導するときのポイントを体感できる。

研究紀要の下書きにもなるので、一石三鳥ですね。でも、初めからレベルの高いプレゼンを目指す必要はありません。気楽に考えてください。

とはいっても、初めての経験で、不安な方もおられるかと思います。そこで、次に、プレゼンを作成するときの大切なポイントを紹介します。

第3条 伝える相手と目的をはっきりさせよう

堀田龍也『プレゼン指導虎の巻』（高陵社）

相手	= 直接的には、矢島小の同僚教師。 (間接的には、研究紀要を見る教師や教育関係者)
----	--

目的	= 今年度、各学年部で実践した「個に応じた指導」の中で、効果的と考える指導方法や指導体制などを、分かりやすく伝える。
----	--